



2018年トレンド予測

社会人学習領域

ケイコとマナブ

スキルアップ、転身・転職するための講座や趣味のレッスン情報が満載。自分にあったスクールを発見し、予約まで行うことができます。

PC

『ケイコとマナブ.net』



スマートフォン

スマートフォン用サイト



アプリ



大学&大学院.net

社会人が学びやすく、社会人にこそ価値がある大学院、通信制大学・大学院だけを集めた専門サイトです。社会人大学院／通信制大学に特化した情報誌を合わせて発行。

PC

大学&大学院.net



情報誌

社会人&学生のための大学・大学院選び



成長機会を求めるミドルが、会社の枠を超えて学び始めた！
2018年、その動きが加速する

まなミドル (学)

企業内の年齢構成や組織構造の変化により、成長機会が
得られにくくなっている今のミドル（40～50代）。

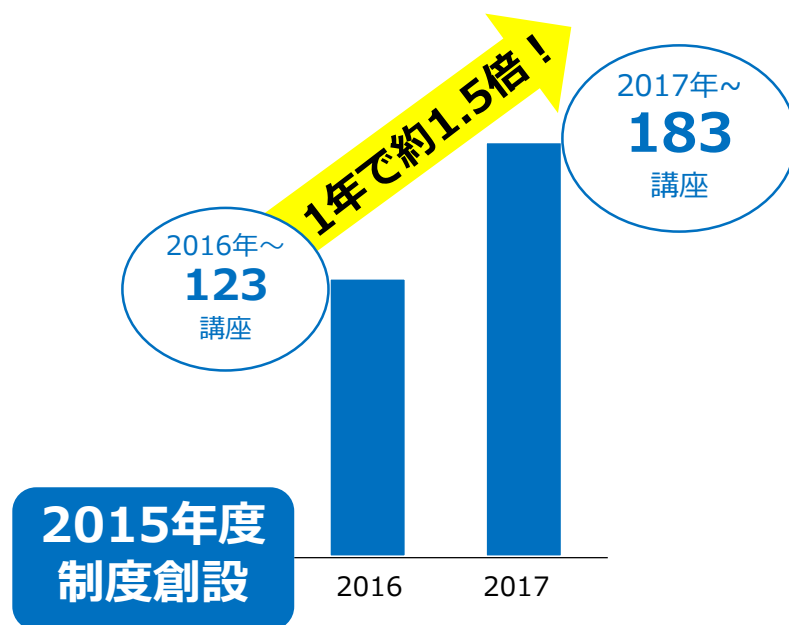
これまで見かけなかった彼らの姿が、
大学院のキャンパスや資格スクールで目立ち始めた。

彼らが学ぶのは趣味・教養目的ではなく、
これからも長く活躍し続けるための準備。
2018年からの制度の充実で、この動きはさらに強まる。

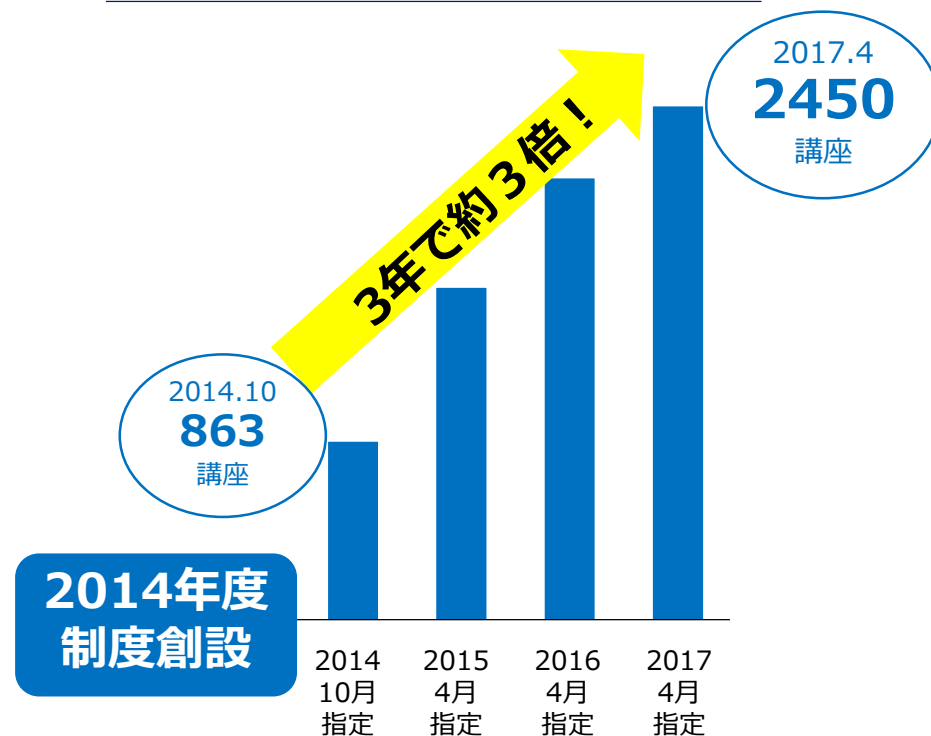
ビジネス経験者を対象とする講座が増えている

国は「**社会人の学び直し**」「**リカレント教育**」を推進。
ビジネス経験者のための講座を認定する制度が創設され、
対象講座が急速に増加中

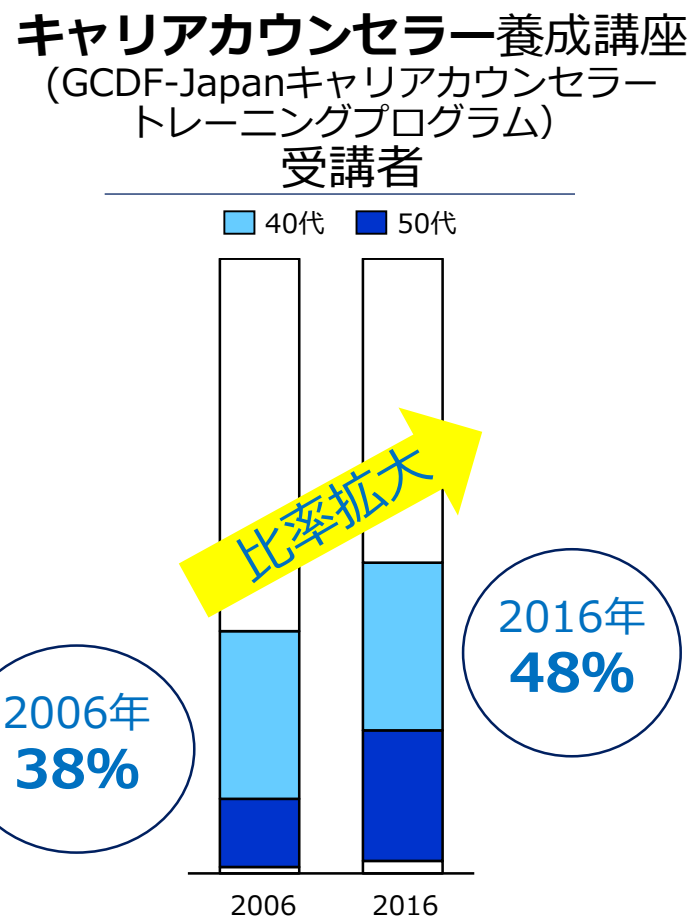
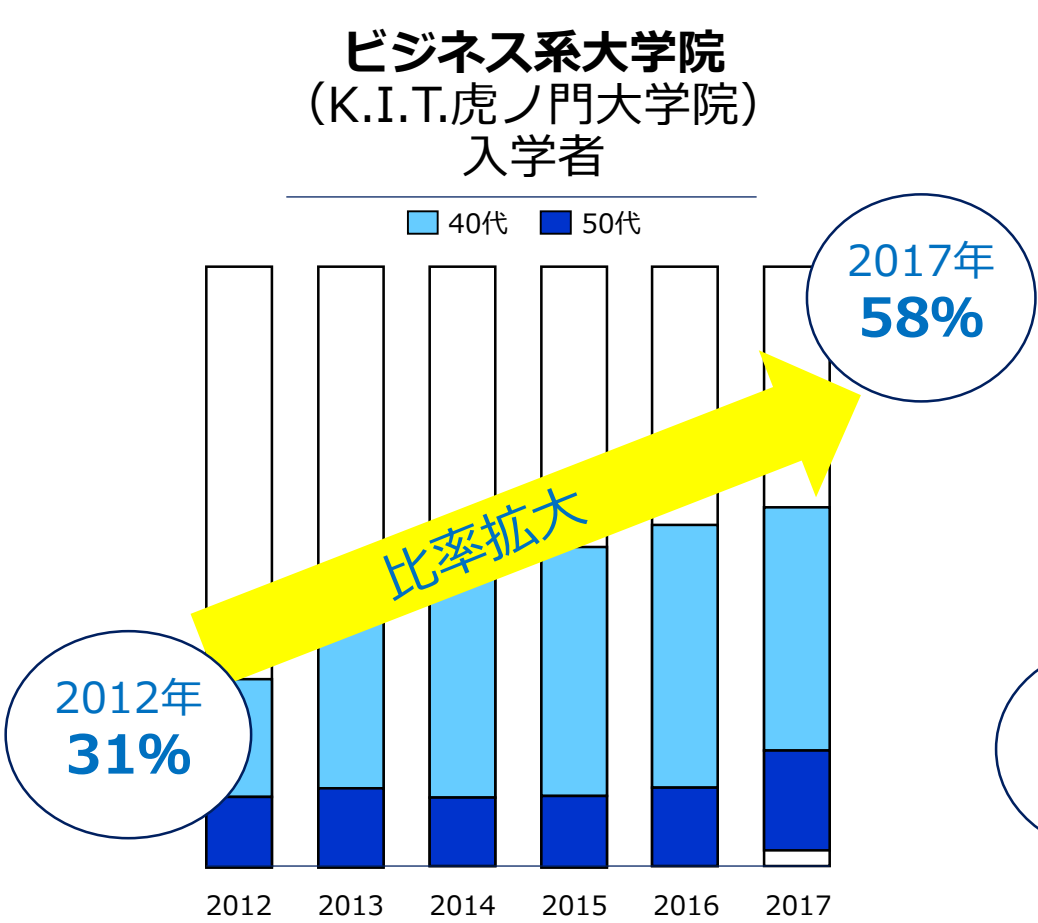
文部科学省認定
「**職業実践力育成プログラム(BP)**」
認定講座数推移



厚生労働省指定
「**専門実践教育訓練給付金**」
累計指定講座数推移



ビジネス経験者を対象とする講座では40～50代の比率が拡大

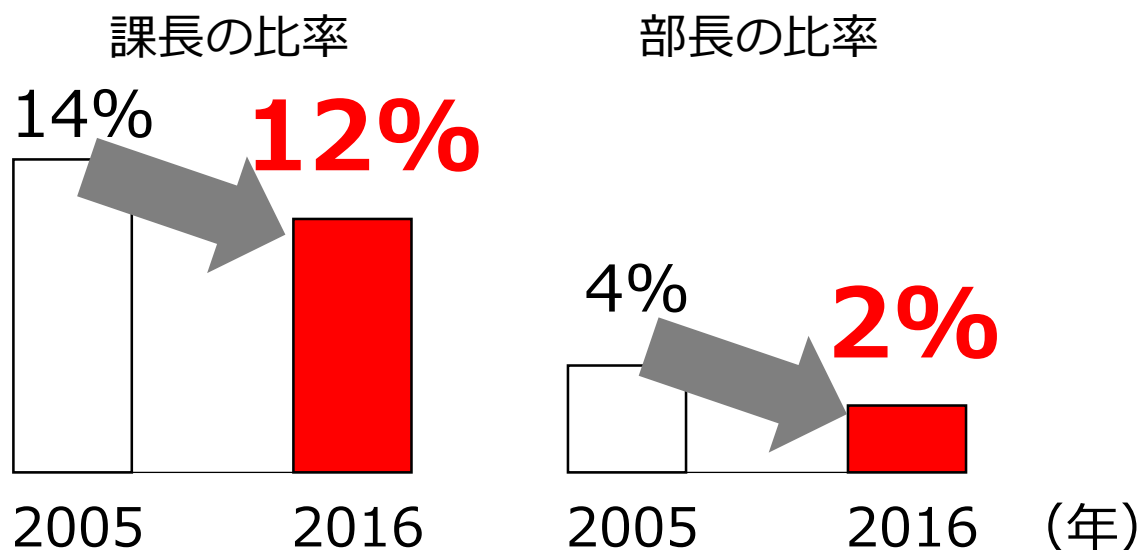


なぜ？？

ポスト不足と現場の実務者不足が相まって 同一ポストに滞在する期間が長期化

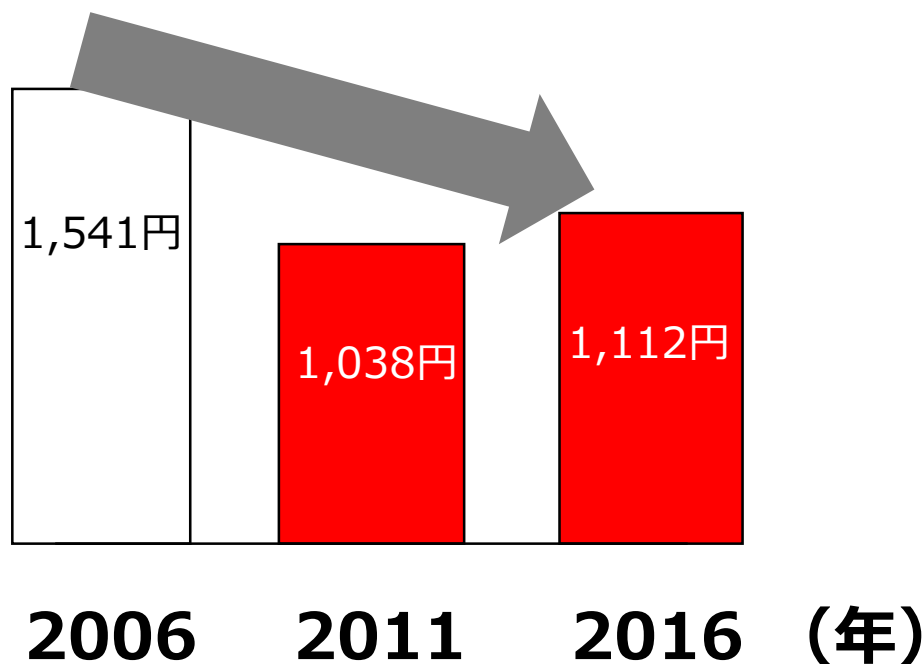
何年も同じ職級で
同じ業務をやっているので
正直停滞感がある
(システム・40代)

低下する
40代の役職者比率



最近めっきり**なくなった「研修」**。
若手の間は望まなくても会社が用意してくれたのに…

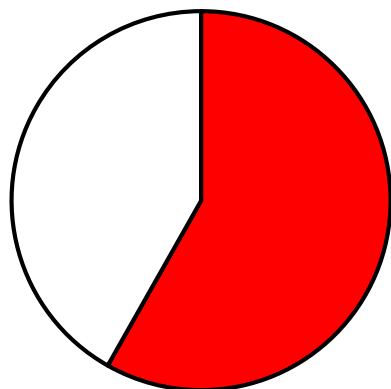
企業の教育訓練費は減少したまま横ばい
従業員 1 人・1 ヶ月あたりの教育訓練費



つきまとう「**資金の不安**」。
計算したことがなくても「足りないと思う」

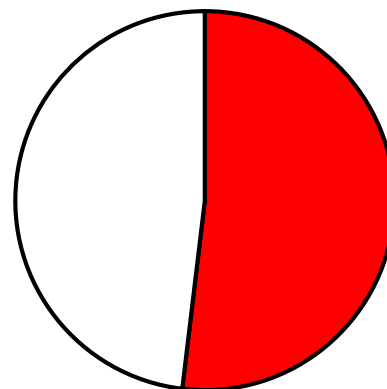
高齢期への経済的な備えが
「**かなり足りない**と思う」

45～49歳



58.2%

50～54歳

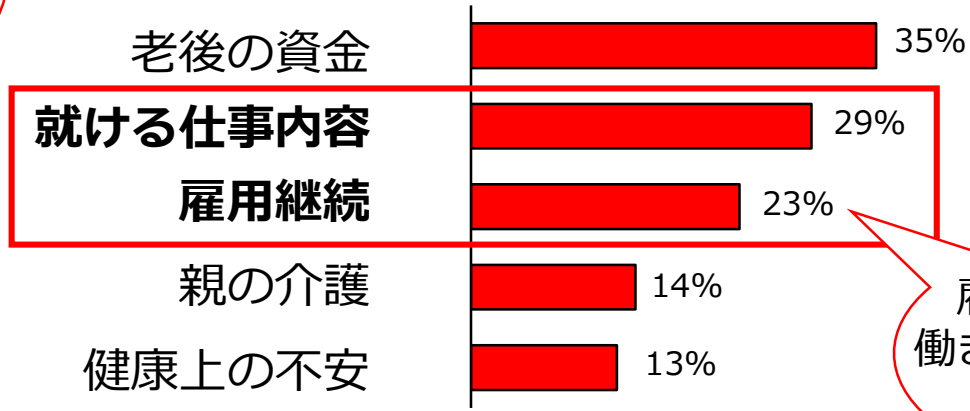


51.9%

できるだけ長く働くことは今や当然。問題は
「どんな仕事に就けるのか」
「継続的に働けるのか」

将来の不安は
「資金」に加え
「仕事内容」「雇用継続」

老後に嫌な仕事を
ずっとやらないといけない
事態は避けたい…
(会社員・40代)



雇用延長のあと
働き口があるか不安
(営業・50代)

学習の実施で、「もやもや」を解消する

まなミドルの学びは「将来・定年後に備えるため」 結果、現状についての「もやもや」も同時に解消

もやもや ポイント①

成長実感の不足
学習機会の欠如

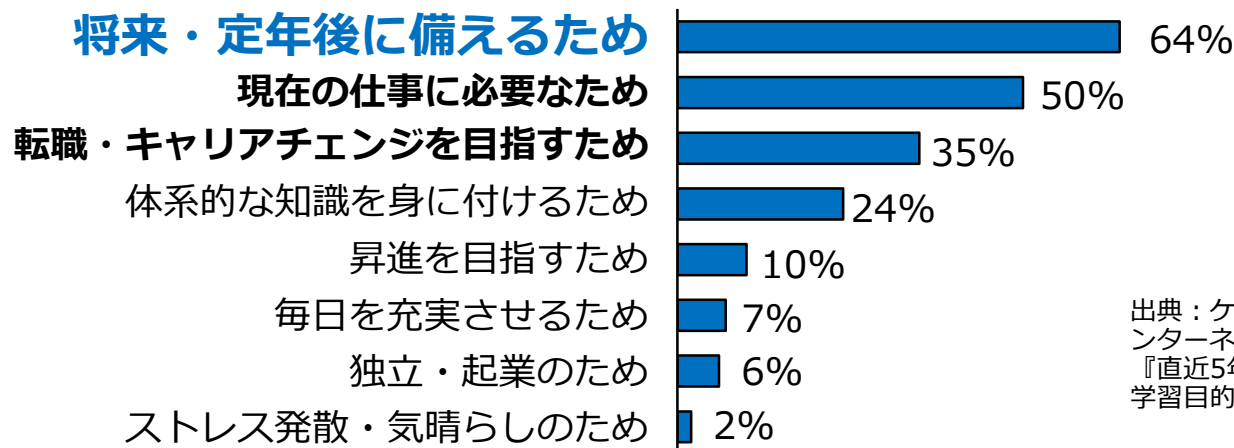
新たなスキル・知識の獲得で
現在の「もやもや」を解消

もやもや ポイント②

将来の仕事や資金
の漠然とした不安

「備える」ことで
将来への不安による「もやもや」を解消

まなミドルの学習目的は 将来に備えるため＞現在の仕事のため



出典：ケイコとマナブ「学習に関するインターネット調査」（2017年）
『直近5年間の通学・通信講座学習者の学習目的』 N=147 複数回答



岩野直樹さん
(入学 **46**歳)

もう20年
同じキャリアを続けている…
このままでいいのか？



門脇俊仁さん
(学習開始時 **48**歳)

過去の自分を
再生産してるだけ
ではないか？

窪田 稔さん
(受講時 **52**歳)



離れて住む
両親が心配…
戻りたいが実家近くに
希望に沿った募集が
ない…

今ある経験や知識を、**社外でも通用する価値**に。
そのプロセスは、一人前になるまでの学びとは大きく異なる



社内向けに特化した経験や能力を客観的にとらえ直す必要
対話やワークショップで**固定観念を崩し、再構築**していく

社会で広く、将来も活用するため、広い視野、多面的な考え方を獲得
業務との往復、アクティブラーニングにより「**肚に落とす**」

社会で広く通用させるため結晶化能力を証明するだけでなく、**経験を重ねるツール**としても有効

土台

ファイナンス知識

震災復興ボランティアでの経験



岩野直樹さん（47歳）
入学時：46歳、リース系企業勤務。
震災復興NPOへの参加、MBAでの科目
履修を経て、K.I.T.虎ノ門大学院イノベー
ションマネジメント研究科在学中

獲得中

広く応用可能な
事業経営の知恵

プロセス① 棚卸し

自分のファイナンスの知識が社外の目からは希少と気づき、復興ボランティアにプロボノとして参加。体系的に学びたいと意識

プロセス② 体系化・理論化

ビジネススクールで改めて経営を学び直す。
経験の偏りを痛感し
多面的に事業を理解することを目指す

プロセス③ 資格・学位

経営学修士（取得予定）

土台

マネジメント経験

エンジニアの経験・専門知識
誰でも先生にできる学習姿勢



窪田 稔さん（54歳）

受講時：52歳、メーカー勤務

（研究開発部門マネージャー）

資格取得後、早期退職・帰郷。

キャリアコンサルタントとして活動開始

獲得

カウンセリングスキル

キャリア指導の専門知識

プロセス① 棚卸し

エンジニアとしての転職先を探すうち、
マネージャーとして培った
育成や採用の経験を活かす可能性に気づく

プロセス② 体系化・理論化

実技では苦戦したが
多様な人々へのカウンセリングスキルを
エンジニア時代の学習姿勢を活かして修得

プロセス③ 資格・学位

GCDF-Japanキャリアカウンセラー
キャリアコンサルタント国家資格

土台

営業経験

マーケティング知識
ブランディング知識

獲得

ファシリテーションスキル

起業のための事業戦略



門脇俊仁さん（54歳）

学習開始時：48歳、

マーケティング会社営業

一昨年、組織開発を専門とする仲間と
コンサルティング会社を起業

プロセス① 棚卸し

自分に揺らぎを起こそうと学び始め、
中小企業の職場改善・事業拡大を支援
したいという自分のドメインが明確に

プロセス② 体系化・理論化

コンサルティングに活用できるファシリ
テーションスキルを修得。同時に、やりたい
ことを実現するために事業戦略を磨く

プロセス③ 資格・学位

（履修証明書）青山学院大学ワークショップ
デザイナー、ベンチャー養成プログラム



- 特色① 対話の多い**アクティブなプログラム**
- 特色② 多様な参加者、**若者も同級生**
- 特色③ 単発ではなく、**継続学習の機会が豊富**



写真提供・撮影協力／青山学院大学ワークショップデザイナー養成プログラム（左2点）、
K.I.T.虎ノ門大学院（右上）、キャリアカウンセリング協会（右下）

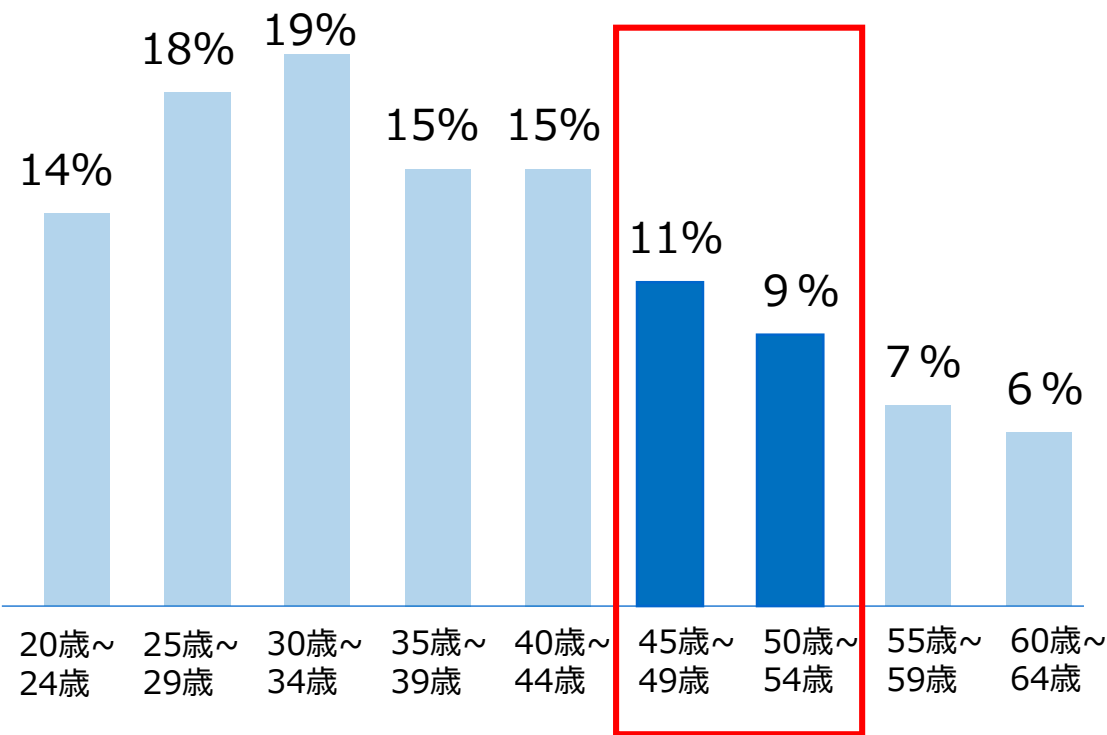
まなミドルがこれまで目立っていなかった理由①

これまで自分の意志での学習には取り組んでこなかった世代

- 若い年代に比べ、ミドル以上の年代は学習実施率が低く、
45～54歳の男性では10人に1人しか学習を実施していない

年代別 男性の昨年1年間の学習実施率

(n=5,024)



学習を実施しようと思っても制約・障壁が大きい！

「まなミドル」になることを阻む
三大障壁

障壁① 費用がかかる！

子どもの進学、親の介護…
家族全体も物入りで、
最もお金に余裕がない時期

障壁② 時間がない！

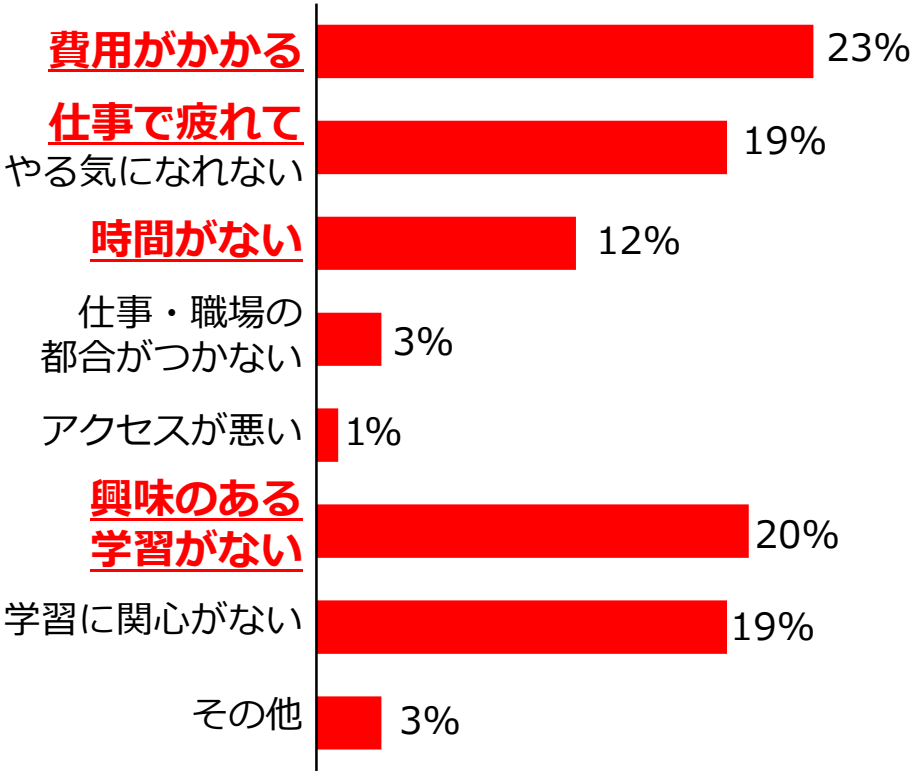
長時間労働が当たり前の世代
人手不足、疲労蓄積で
学習を考える余裕がない

障壁③ 講座がない！

自分の関心のあるテーマの講座や、
経験者を対象とした講座がない

学びを実施しない理由

(n=6,883 単一回答)



出典：ケイコとマナブ「学習に関するインターネット調査」（2017年）
『直近5年間通学・通信講座の非実施者の、学習非実施理由』

制度の充実や社会環境の変化により、
学びの障壁が、まさに取り払われようとしている

1 費用がかかる

2018年
専門実践教育訓練給付金制度の充実で
給付金が70%に！

**2 仕事で疲れ
学ぶ時間がない**

働き方改革で
拘束時間が減少

**3 学びたい
講座がない**

経験者を対象とする
講座が増加

成長機会を求めるミドルが、会社の枠を超えて学び始めた！
2018年、その動きが加速する

まなミドル (学)

企業内の年齢構成や組織構造の変化により、成長機会が
得られにくくなっている今のミドル（40～50代）。

これまで見かけなかった彼らの姿が、
大学院のキャンパスや資格スクールで目立ち始めた。

彼らが学ぶのは趣味・教養目的ではなく、
これからも長く活躍し続けるための準備。
2018年からの制度の充実で、この動きはさらに強まる。